kintone プラグイン

データ保存・復元プラグイン はじめてのチュートリアル

約 20 分で「保存して、変えて、元に戻す」までを体験します

対象バージョン：**1.0.0**
発行：2026年11月
作成：**シーアイエス 先進技術推進部**

このチュートリアルについて

練習用のアプリを使って、プラグインの設定から「データを保存する → データを変える → 保存時点に戻す」までを、実際に手を動かしながら体験します。

このチュートリアルで身につくこと

- アプリにプラグインを追加して、保存先アプリを用意できる
- 💾 ボタンで、今のデータを保存できる
- ↩️ ボタンで、保存した時点の状態に戻せる
- 戻したときに、何がどう変わるのかがわかる

進め方

ステップ	内容	目安
STEP 1〜3	準備：プラグインの追加と設定	約 7 分
STEP 4〜5	体験①：ボタンを確かめて、データを保存する	約 3 分
STEP 6〜8	体験②：データを変えて、保存時点に戻す	約 8 分
STEP 9	保存データの中身をのぞいてみる	約 2 分

始める前に準備するもの

プラグイン	kintone システム管理で、「データ保存・復元プラグイン」が読み込まれていること。まだの場合は、kintone システム管理者に依頼してください（操作マニュアル 3.1 参照）。
練習用のアプリ	レコードが **5〜10 件**ほど入っているアプリ。**本番で使っているアプリではなく、練習用のアプリ**を使ってください。既存のアプリを「アプリを再利用して作成」でコピーすると簡単です。
権限	練習用のアプリの**アプリ管理権限**と、**アプリの作成権限**（保存先アプリを作るため）。

> **本番のアプリで練習しないでください**
> このチュートリアルでは、レコードの編集・追加・削除と、元に戻す操作を行います。ほかの人が使っているアプリで行うと、その人の作業内容まで上書きされてしまいます。

> **このチュートリアルの例**
> 説明では、レコードが **10 件**入っている練習用アプリ「工程表（練習用）」を例にしています。お使いのアプリの件数に合わせて読み替えてください。

準備：プラグインを使えるようにする

STEP 1　アプリにプラグインを追加する

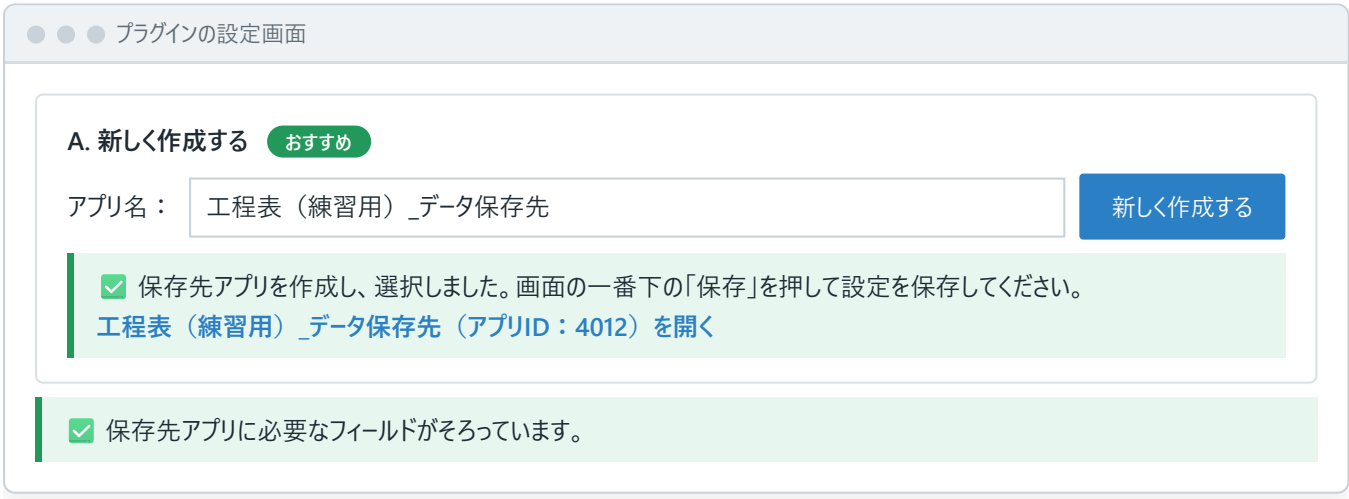
1. 練習用のアプリを開き、右上の歯車アイコンから「**アプリの設定**」を開きます。
2. 「設定」タブの「**プラグイン**」をクリックします。
3. 「**プラグインを追加する**」をクリックし、「データ保存・復元プラグイン」にチェックを入れて「**追加**」をクリックします。
4. 一覧に追加されたプラグインの**歯車アイコン**をクリックして、設定画面を開きます。

✓ 確認ポイント
設定画面の一番上に「データ保存・復元プラグインの設定」と「作成：シーアイエス 先進技術推進部」が表示されていれば OK です。

STEP 2　保存先アプリを作る

保存したデータをしまっておく「保存先アプリ」を、ボタンひとつで作ります。

1. 設定画面の「保存先アプリ」で、「**A. 新しく作成する**」の欄を見つけます。
2. 「アプリ名」に「工程表（練習用）_データ保存先」のような名前が入っていることを確認します。
3. 「**新しく作成する**」を押し、確認のメッセージで「**OK**」を押します。
4. 「（1/4）」から「（4/4）」まで進むのを待ちます。数秒〜十数秒かかります。



保存先アプリができると、緑のメッセージが 2 つ表示されます

✓ 確認ポイント
「✅ 保存先アプリを作成し、選択しました。」と「✅ 保存先アプリに必要なフィールドがそろっています。」の 2 つが表示されていれば OK です。

❌ が表示されたときは

アプリの作成権限がない可能性があります。kintone システム管理者に権限を確認するか、作成済みの保存先アプリを「B. 既存のアプリを選ぶ」で選んでください（操作マニュアル 3.4 参照）。

STEP 3　設定を保存して、アプリを更新する

1. 「ボタンを表示するユーザー」は**空欄のまま**にします（全員にボタンが表示されます）。
2. 「表示する件数」は **20** のままにします。
3. 画面の一番下の「**保存**」を押します。プラグインの一覧画面に戻ります。
4. 画面上部の「**アプリを更新**」を押し、確認のメッセージで「アプリを更新」を押します。

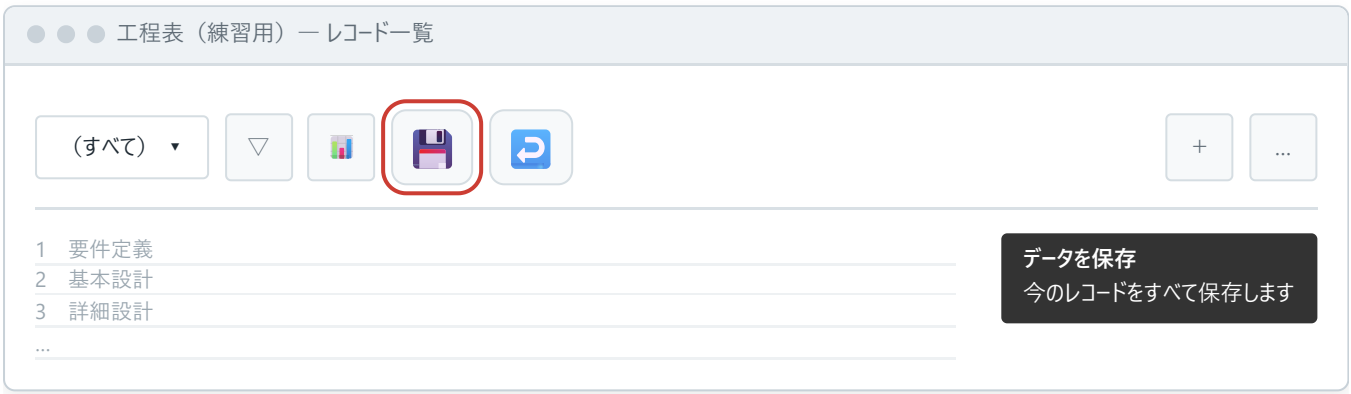
ポイント

「アプリを更新」を押すまで、設定はアプリに反映されません。忘れやすいので注意しましょう。

体験①：今のデータを保存する

STEP 4　ボタンを確かめる

1. 練習用のアプリのレコード一覧画面を開きます。
2. 集計（グラフ）アイコンの右側に、💾 と 🔁 の 2 つのボタンがあることを確認します。
3. 💾 ボタンに**マウスを乗せて**みます。「データを保存」という説明が表示されます。🔁 ボタンにも乗せてみましょう。



マウスを乗せると、ボタンの説明が表示されます

✓ 確認ポイント

2 つのボタンが表示され、マウスを乗せると説明が出れば OK です。ボタンが見えないときは、Ctrl + F5 で再読み込みしてください。

STEP 5　今の状態を保存する

1. 💾 ボタンを押します。
2. 「保存名」を「**チュートリアル開始時点**」に書き換えます。
3. 「⚠ ご注意ください」の内容に目を通し、「**保存する**」を押します。
4. 「**10件のレコードを保存しました。**」と表示されたら、「OK」を押します。



保存名は、あとで見分けやすい名前にしておくと便利です

✓ 確認ポイント

保存した件数が、アプリのレコード数と同じであれば OK です。

体験②：データを変えて、元に戻す

STEP 6　データを変えてみる

デモや研修でデータが変わった場面を再現するために、次の 3 つの操作をします。**どのレコードを変えたか、メモしておきましょう。**

操作	やること	メモの例
① **編集**	どれか 1 件のレコードを開き、タイトルなどの項目を書き換えて保存します。	レコード 2 の件名を「★編集しました」に変更
② **追加**	新しいレコードを 1 件追加します。	レコード 11「★追加しました」を追加
③ **削除**	どれか 1 件のレコードを削除します。	レコード 5「テスト計画」を削除

✓ 確認ポイント

一覧画面で、編集・追加・削除の結果が反映されていれば OK です（レコードは 10 件のままです）。

STEP 7　保存時点に戻す

1. レコード一覧画面で ↩ ボタンを押します。
2. 「どの時点に戻しますか？」で「**チュートリアル開始時点（10件・…）**」が選ばれていることを確認し、「**次へ**」を押します。
3. 確認画面に表示される**件数**を見てみましょう。STEP 6 の操作と対応しています。
4. 「**この時点に戻す**」を押します。
5. 「保存時点に戻しました。」と表示されたら「OK」を押します。画面が再読み込みされます。



確認画面の件数（10 件のアプリで STEP 6 を行った場合）

確認画面の表示	STEP 6 のどの操作か
上書き: 9件	保存したときにも今もある 9 件（① 編集したレコードを含む）を、保存したときの内容で上書きします。
削除: 1件	② で追加したレコードを削除します。
再登録: 1件	③ で削除したレコードを、もう一度登録します。

STEP 8 元に戻ったことを確かめる

STEP 6 のメモと見比べて、次の 3 点を確認しましょう。

✓ 確認ポイント

- ① 編集したレコードが、**元の内容**に戻っている
- ② 追加したレコードが、**なくなっている**
- ③ 削除したレコードが、**復活している**（ただし、**レコード番号は新しい番号**になっています）

レコード番号が変わる理由

kintone では、一度削除したレコード番号を再び使うことができません。そのため、削除されたレコードは新しい番号で登録し直されます。内容は保存したときと同じです。

作成日時・更新者などは戻りません

作成者・更新者・作成日時・更新日時は kintone が自動で記録する項目のため、戻した日時・戻した人で記録されます。添付ファイル、コメント、プロセス管理のステータスも戻りません。

保存データをのぞいてみる

STEP 9 保存先アプリを開いてみる

1. STEP 2 で作った保存先アプリ「工程表（練習用）_データ保存先」を開きます。
2. 「チュートリアル開始時点」という保存名のレコードがあることを確認します。
3. レコードを開くと、「対象アプリID」「件数」と、「データ」欄に JSON ファイルが添付されていることがわかります。

> **保存先アプリのレコードは編集しないでください**
> 「データ」のファイルや「対象アプリID」を変えると、正しく戻せなくなります。不要になった保存データは、レコードごと削除して整理できます。

おつかれさまでした

これで、「保存して、変えて、元に戻す」までの一連の操作ができるようになりました。

実際に使うときのコツ

- **デモや研修の前に必ず保存**：本番前に「デモ前の初期データ」のような名前で保存しておくと、終わったあとすぐに戻せます。
- **保存名で見分けられるように**：「11/05 研修前」「CSV 取り込み前」など、いつ・何の前かがわかる名前にしましょう。
- **戻す前に周知**：戻すと、ほかの人の編集内容も上書きされます。アプリを使っている人に声をかけてから戻しましょう。
- **迷ったら今の状態も保存**：戻す前に今の状態を保存しておけば、戻したあとに「やっぱり戻す前の状態がよかった」となっても安心です。
- **使う人を限定したいとき**：設定画面の「ボタンを表示するユーザー」に、操作を許可する人のログイン名を入力します。

もっと詳しく知りたいときは

制限事項、必要なアクセス権、エラーが出たときの対処などは、「**データ保存・復元プラグイン 操作マニュアル**」をご覧ください。

作成：シーアイエス 先進技術推進部